

三宅砂織『Nowhere in Blue』開催のご案内

展覧会名：三宅 砂織『Nowhere in Blue』

会 期：2023年10月21日（土）-11月19日（日）

オープニングレセプション：10月21日（土）18:00-20:00 *作家が在廊いたします

開廊時間：12:00-19:00（日曜-17:00）

定休日：月・火・祝日 *11月3日（金・祝）は開廊

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2023年10月21日（土）から11月19日（日）まで、三宅砂織の個展『Nowhere in Blue』を開催いたします。三宅はこれまで、さまざまな経緯で出会った既存の画像を、ネガポジ反転させて透明シートの上に描き、それを感光紙の上に重ねて露光することで、ドローイングの「影」を印画するというフォトグラムの手法に取り組んできました。近年では、フォトグラムの制作を通して深めた思考を反映させた映像作品や、日光で感光させるサイアノタイプにも取り組みながら、人間がさまざまなものに眼差しを向け、それを何らかの方法で画像化することや、画像化されたものが共有され、また新たな眼差しが重なっていくという営みの中に存在する「絵画的な像」を抽出するような試みを続けています。本展で三宅は、サイアノタイプの新シリーズと、その思考を反映させた映像作品を初めて発表いたします。それらは、世界的なパンデミックの経験や生成AIの爆発的普及など、劇的に変化し続ける日常を三宅がアーティストとして過ごす中で、森林や庭園を歩くことから見出した「ランドスケープ（風景／風景画）」についての思索が反映されたシリーズになります。



『Nowhere in Blue』 2023年（ビデオスチル）

作家・三宅砂織について

1975年岐阜県生まれ。2000年に京都市立芸術大学大学院美術研究科を修了。現在は京都を拠点に活動中。主な個展に「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.9 三宅砂織」（2021、岐阜県美術館アトリエ／岐阜）、「庭園 | POTSDAM」（2019、SPACE TGC／東京）、「THE MISSING SHADE 3」（2018、WAITINGROOM／東京）、「THE MISSING SHADE 2」（2017、SAI GALLERY／大阪）など。主なグループ展に、「The Practice of Everyday Practice 日常の実践の練習」（2021、名古屋芸術大学 Art & Design Center／愛知）、「奥能登国際芸術祭2020+最涯の芸術祭、美術の最先端。」（2021、石川県珠洲市全域／石川）、「MOTアニュアル2019 Echo after Echo: 仮の声、新しい影」（2019、東京都現代美術館／東京）、「第20回 DOMANI・明日展」（2018、国立新美術館 企画展示室2E／東京）などが挙げられます。2016年『京都府文化奨励賞』、2013年『咲くやこの花賞』美術部門、2010年『VOCA賞』などの受賞や、東京都現代美術館、兵庫県立美術館、京都市立芸術大学、モンブラン ジャパンへの作品収蔵など、幅広く活躍している作家です。



"Blue print" 2023, Cyanotype on paper, 240 x190 mm



"Blue print" 2023, Cyanotype on paper, 400 x710 mm

影が描く風景の「青写真」

鮮やかな青色の発色を特徴とするサイアノタイプは、鉄塩の化学反応を利用した写真技法です。19世紀に発明された写真方式で、太陽光で印画することができるため、日光写真とも呼ばれています。三宅砂織はこの手法について「自分の作品を作る手法として取り入れ始めたのは、新型コロナウイルスの感染拡大で“外出自粛”をしていた時期です。室内に閉じこもっていたことから、屋外の環境や自然への意識が高まっていました。暗室の外へ出て、太陽の光でプリントすることが、個人的な癒しでもありました。」（『版画芸術』2022年春号 (No.195)、pp.26-33）と語っています。新型コロナウイルス感染症が猛威を奮ったこの数年間、三宅は、岐阜県美術館や石川県珠洲市、長野の山荘で滞在制作を行ないました。庭園や森林など、自然物と人工物が同居しながら形づくられた風景を眺めながらあてもなく歩く中で、テクノロジーが私たちと自然との関わりや理解をどう変えてきたのか、また、そうした環境変化の中で、アートはどういうように存在するのかについて、より深く考えるようになったといいます。

イメージの組成そのものに興味を持ち、イメージが共有される営みに内在する「絵画的な像」を探求してきた三宅にとって、既存のイメージの学習から新たなイメージを生み出す生成AIの普及も、大きな影響を与えました。滞在制作を行なっていた長野県の山荘周辺の風景をネガポジ反転させた映像作品や、映像作品の、時間の異なるシーンのスチル画像をフィルムに出力し、重ね合わせて多重露光したシリーズ、そして、デジタル画像のグリッドを拡大した画像をスクリーンショットして画面上で合成し、出力したフィルムをさらに実際に重ね合わせて焼き付けたシリーズなど、本展で発表される新シリーズはどれも、世界的なパンデミックの経験と、生成AIの急速な普及という、ここ数年の「日常」を三宅がアーティストとして過ごす中で生まれたものです。

画像イメージの起源としての「影」にまで遡り、その特徴ともいえる複数性や反転といった要素を取り入れながらつくられた「どこでもない」風景は、SFの世界のように、人間が滅び、世界が自然に飲み込まれた後の未来をも彷彿とさせます。独特なプロセスをもって制作された作品群はどれも、絵画とも写真とも異なる奥行きをもち、「どこかではあるけど、どこでもない」「いつかではあるけど、いつだかわからない」という、時間や場所がかき回される感覚を呼び起こすかのようです。それは三宅のいう、イメージが生まれ、共有される過程に存在している「絵画的な像」が抽出された状態であると言えるでしょう。

サイアノタイプという写真における古典技法と、生成AIなどの画像生成技術を重ねたとき、どのような「風景」が見えるのか。未来の姿を想像することを「青写真を描く」と言いますが、三宅が実際に滞在していた山荘の家具に座り、現実の時間よりもゆっくりと流れ青い映像の風景を眺めながら、どこかにあるかもしれない・いつかあるかもしれない未知の「風景」に、ぜひ思いを巡らせてみてください。



アートウィーク東京

会期中、東京都内の50以上のアートスペースが参加する4日間のアートイベントに参加します。
イベント内「AWT BAR」では、三宅砂織のコラボレーションカクテルが振る舞われます。
詳細は下記リンク先をご覧ください。

※開廊時間が異なりますのでご注意ください（木-土曜 10:00-19:00／日曜 10:00-18:00）

会期：2023年11月2日（木）- 5日（日）
詳細：<https://www.artweektokyo.com>

ART WEEK
TOKYO
November 2-5
2023



三宅 砂織（みやけ・さおり）

1975 岐阜県生まれ
 1998 京都市立芸術大学美術学部美術科 卒業
 1999 英国ROYAL COLLEGE OF ART 交換留学
 2000 京都市立芸術大学大学院美術研究科 修了
 現在京都を拠点に活動中

個展

- 2021 「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.9 三宅砂織」岐阜県美術館アトリエ（岐阜）
- 2019 「庭園 | POTSDAM」SPACE TGC（東京）
- 2018 「白夜」haku（京都）
- 「THE MISSING SHADE 3」WAITINGROOM（東京）
- 2017 「THE MISSING SHADE 2」SAI GALLERY（大阪）
- 2015 「THE MISSING SHADE」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 2013 「Found」TRAUMARIS/SPACE（東京）
- 「Abstract dislocation」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 2011 「realities or artifacts」ギャラリーノマル（大阪）
- 2010 「image castings 2」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 「image castings」GALLERY at lammfromm（東京）
- 2009 「CONSTELLATION 2」Yuka Sasahara Gallery（東京）
- 2007 「プリックル」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 「CONSTELLATION」Yuka Sasahara Gallery（東京）
- 2006 「トゥインクル」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 2004 「ナゾナゾライ」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 2003 「点／滅」ノマルエディション（大阪）
- 2002 「三宅砂織展」ギャラリーココ（京都）
- 「三宅砂織展」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 2001 「さがしもの」FUKUGAN GALLERY（大阪）
- 「三宅砂織展」ギャラリーココ（京都）
- 2000 「三宅砂織展」ギャラリーココ（京都）



2021年『アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.9 三宅砂織』
 （岐阜県美術館アトリエ、岐阜）展示風景
 Photo by Tetsuo Ito

主なグループ展

- 2023 「“MEMORIES 01” selected by Yoshiaki Inoue」CADAN有楽町（東京）
 「VOCA30周年記念 1994-2023 VOCA 30 YEARS STORY / KOBE展」兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー（兵庫）
- 2022 「ミラーレス・ミラー」gallery αM（東京）
- 2021 「The Practice of Everyday Practice 日常の実践の練習」名古屋芸術大学 Art & Design Center（愛知）
 「奥能登国際芸術祭2020+最涯の芸術祭、美術の最先端。」石川県珠洲市全域（石川）
 「MOTコレクション Journals 日々、記す」東京都現代美術館（東京）
 「DELTA デルタ」KAYOKOYUKI（東京）、駒込倉庫 Komagome SOKO（東京）
 「恵比寿映像祭2021・地域連携プログラム『映像の気持ち 小瀬村真美 × 三宅砂織』」MA2 Gallery（東京）
- 2020 「10TH」WAITINGROOM（東京）
 「task」アートラボあいち（愛知）
 「10のテーマでアートをつなぐ」群馬県立館林美術館（群馬）
- 2019 「MOTアニュアル2019 Echo after Echo: 仮の声、新しい影」東京都現代美術館（東京）
 「The Voices of Time」絆屋ビルヂング（京都）
 「Stone Letter Project #2 石からの手紙 – ESPAI NAU U」Escola Llotja Sant Andreu（バルセロナ、スペイン）
 「real SOU #2 やさしい贈り物 「SOU」のほんもの作品展」茨木市本町センター（大阪）
- 2018 「SOU JR総持寺駅アートプロジェクト」JR総持寺駅（大阪）
 「MUSUBI」GALERIE DA-END（パリ、フランス）
 「県政150周年記念 ひょうご近代150年」兵庫県立美術館（兵庫）
 「VOCA展25周年企画 ALL VOCA賞」第一生命ギャラリー・第一生命日比谷本社ロビー（東京）
 「第20回 DOMANI・明日展」国立新美術館 企画展示室2E（東京）
- 2017 「アートのなぞなぞ」高橋コレクション展 – 静岡県立美術館 企画展示室（静岡）
 「NEWSPACE」WAITINGROOM（東京）
 「ArtMeets04 田幡浩一／三宅砂織」アーツ前橋・ギャラリー1（群馬）
 「Certains Regards à Paris - ある視点 in Paris -」兵庫県パリ事務所（パリ、フランス）

- 2016 「日本・ベルギー国際交流美術展in金沢 / WEWANTOSEE」金沢21世紀美術館市民ギャラリーB（全フロア）（石川）
 「La métis du renard et du poulpe」 CABANE GEORGINA（マルセイユ、フランス）
 「ドローイング レッスンズ」 3331アーツ千代田（東京）
- 2015 「第51回企画展 "現代の美術作家4人展 4 Spirited Artists"」 関市立篠田桃紅美術空間（岐阜）
 「Why did I laugh tonight?」 Gallery Out of Place（東京）
- 2014 「Layering」 ギャラリー ノマル（大阪）
 「HANGA-Japanese and Belgian printmaking today」 セントニクラス美術館（セントニクラス、ベルギー）
 「"Kokoro" (*coeur et esprit)」 ジュンヌ クレアシオン ギャラリー（パリ、フランス）
- 2013 「秘密の湖～浜口陽三・池内晶子・福田尚代・三宅砂織～」 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション（東京）
 「アートがあればII」 東京オペラシティアートギャラリー（東京）
 「みなどの物語」 クリエイティブセンター大阪（大阪）
- 2012 「New contemporaries」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
 「キュレーターからのメッセージ2012 現代絵画のいま」 兵庫県立美術館（兵庫）
 「自主企画展『アブストラと12人の芸術家』」 大同倉庫（京都）
- 2011 「『ベルギー&日本-当世版画交流展』～Part 1～ひらのはっこうあれじまい」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA2（京都）
 「TOUGEN『現代作家による桃源郷へのアプローチ』」 masayoshi suzuki gallery（愛知）
- 2010 「あいちアートの森」 ナゴヤインドアテニスクラブ（愛知）
 「VOCA展2010－新しい平面の作家たち－」 上野の森美術館（東京）
- 2009 「neoneo展 Part 2 [女子]」 高橋コレクション日比谷（東京）
 「モンブラン ヤングアーティスト ワールド パトロネージ 2009」 モンブラン銀座本店（東京）
- 2008 「JAPAN NOW」 Inter Alia Art Company（ソウル、韓国）
 「SENJIRU / INFUSION」 Galerie Kashya Hildebrand（チューリッヒ、スイス）
 「MAXI GRAPHICA / Final destinations」 京都市美術館（京都）
 「ローカス 五人の作家が紡ぎだす軌跡」 神戸アートビレッジセンター（神戸）
- 2007 「in my room」 FUKUGAN GALLERY（大阪）
 「Art Court Frontier 2007 #5」 アートコートギャラリー（大阪）
 「版という距離」 京都芸術センター（京都）
- 2006 「YSG project vol.1 加藤千尋／三宅砂織」 Yuka Sasahara Gallery（東京）
- 2005 「錦市場でフィレンツェ、トスカーナを探そう展」 錦市場（京都）
 「密、砂、織 展」 ギャラリー16（京都）
 「Independent～イメージと形式～」 愛知県美術館ギャラリー（愛知）
- 2004 「art in transit 展」 パレスサイドホテル（京都）
- 2003 「temporary project room exhibitions」 名古屋造形芸術大学（愛知）
- 2002 「multiple market メイド・イン・キヨート」 ヴォイスギャラリー（京都）
 「想画展/ 青木陵子・法貴信也・谷本良子・ブブ・三宅砂織」 ヴォイスギャラリー（京都）
- 2001 「京都府美術工芸選抜展～2001新しい波～」 京都文化博物館（京都）
 「Between The Lines」 ギャラリーココ（京都）
- 2000 「新鋭美術選抜展」 京都市美術館（京都）
 「神戸アートアニュアル」 神戸アートビレッジセンター（兵庫）

アワード

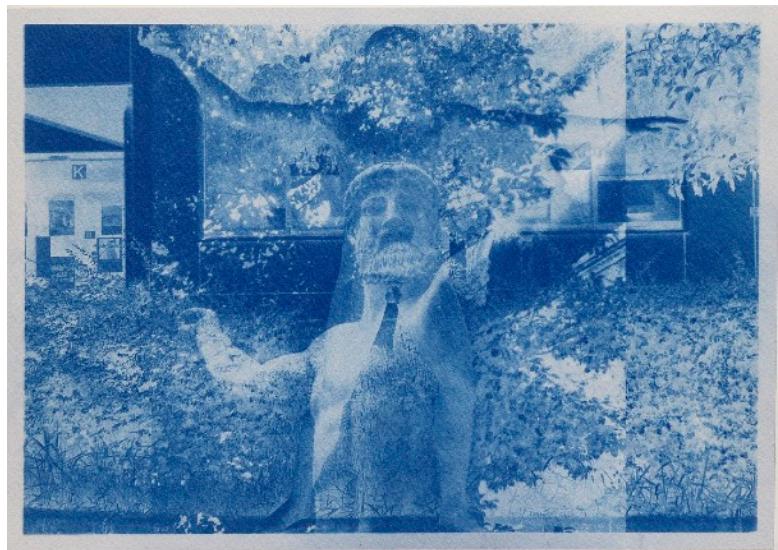
- 2016年 京都府文化賞奨励賞
 2013年 JEUNE CREATION 奨励賞
 2011年 2011年度 咲くやこの花賞 美術部門
 2010年 VOCA賞

助成金

- 2016年 文化庁新進芸術家海外研修制度、文化庁

出版物

- 『庭園（ポツダム）』 2020年11月（私家版）



"Untitled" 2021, Cyanotype on watercolor paper, 205 x 290 mm

展覧会図録

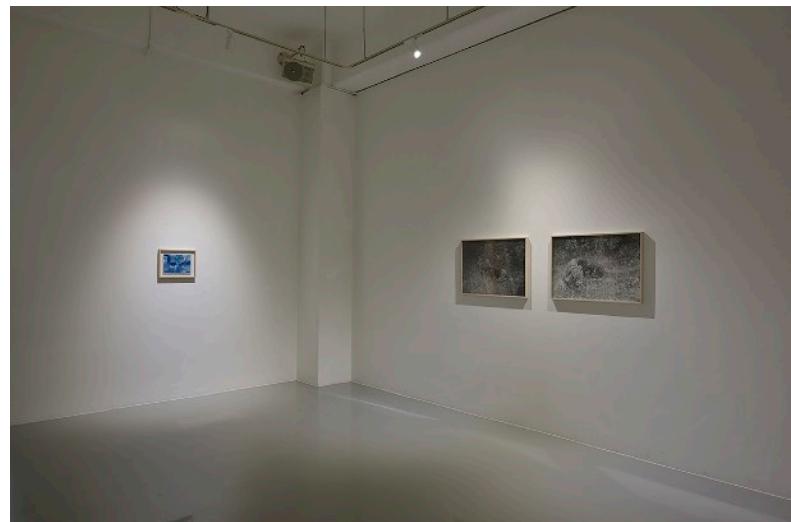
『αMプロジェクト2020-2021 αM + vol.2 わたしの穴 美術の穴 地底人とミラーレス・ミラー』わたしの穴 美術の穴、gallery αM（編者）武蔵野美術大学 大学規格グループ 社会連携チーム（発行）、2023年3月31日
『VOCA30周年記録集1994 - 2023』公益団体法人日本美術協会、上野の森美術館、2023年
『DOMANI・明日展 記録集1998 - 2021』文化庁、2022年
『アートのなぞなぞ - 高橋コレクション展』静岡県立美術館、2017年12月21日
『Art Meets 04』アーツ前橋、2017年3月31日
『HANGA』Stedelijke Musea Sint-Niklaas（ベルギー）、2014年3月
『秘密の湖』ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション、
2013年6月
『アブストラと12人の芸術家』アブストラクト実行委員会、2013年
『New contemporaries』京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2012年03月24日
『キュレーターからのメッセージ2012 現代絵画のいま』兵庫県立美術館、2012年
『BYE BYE KITTY!!!』JAPAN SOCIETY、Yale University Press（アメリカ）、2011年
『あいちアートの森 -アートが開くあいちの未来-』あいちアートの森実行委員会、2010年3月
『VOCA 2010』「VOCA展」実行委員会、公益財団法人日本美術協会、上野の森美術館、2010年
『ART INITIATIVE PROJECT EXHIBITION AS MEDIA 2008 LOCUS』神戸アートビレッジセンター[KAVC]、2009年3月31日
『MAXI GRAPHICA / Final Destinations』マキシグラフィカ事務局、2008年9月
『JAPAN NOW』Inter Alia Art Company（韓国）、2008年4月
『Independent-イメージと形式-』現代版画NAGOYA Independent-イメージと形式-2005展実行委員会、2005年
『ispa JAPAN 京都会議 関西現代版画の開拓者と新世代たち 版画の力』ispa JAPAN京都会議実行委員会、2004年11月
『京都府美術工芸新鋭選抜展 2001新しい波』京都府・京都府文化博物館、2001年
『神戸アートアニュアル2000 「裸と被-raとhi-」』神戸アートビレッジセンター、2001年

パブリックコレクション

東京都現代美術館
京都市立芸術大学
兵庫県立美術館
町田市立国際版画美術館
モンブラン ジャパン
第一生命保険相互会社
千島土地株式会社
高橋龍太郎コレクション
テネシー大学ユーイングギャラリー

アーティストウェブサイト

<http://saorimiyake.com>



2021年グループ展『The Practice of Everyday Practice 日常の実践の練習』
(名古屋芸術大学 Art & Design Center、愛知) 展示風景
Photo by Tetsuo Ito

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel : 03-6304-1877 Eメール : info@waitingroom.jp

Web : <http://waitingroom.jp>